

「エコドライブから始める地球温暖化防止」

平成28年10月12日、役場会議室において岩手県地球温暖化防止活動推進員の吉田偉峰氏をお迎えし、『エコドライブ講習会』と題して環境講演会を開催しました。

私たちの生活に欠かせない自動車は近年、燃費性能が大幅に改善してきています。しかし、いくら燃費の良い自動車に乗っていても運転の方法ひとつで燃費が大きく変動してしまうのです。この講習会では燃料代の節約と温室効果ガスの削減が同時にできる、まさに一石二鳥のエコドライブの方法を教えてくださいました。

地球温暖化防止のために私たちにできることは限られています。また、何か始めようとしてもお金がかかってしまうことがあります。しかしエコドライブであれば講習を受けてから自宅に帰るまでの間にすぐ始めることができますし、燃料代が安くなる分のお金を浮かせることができます。

ひらいずみ地球温暖化対策協議会では継続してエコドライブの普及を呼びかけていきます。平成29年度も講習会を予定しておりますので、エコドライブに興味のある方や質問がある方は役場町民福祉課内の事務局までお問い合わせください。



環境講演会

- 日 時 平成29年3月25日（土曜日） 13時30分～15時00分
- 会 場 役場2階 201会議室
- 内 容 「家電と電気の意外な話」
- 参加費 無料
- 講 師 岩手県地球温暖化防止活動推進員 高橋 功氏

普段私たちが何気なく使用している家電や電気のちょっと意外なお話を聞いてみませんか。昨年解禁された電力自由化の話も交えながら、地球温暖化防止活動推進員の高橋さんにお話をいただきます。

地球温暖化対策に取り組む会員募集中!!

ひらいずみ地球温暖化対策協議会（略称：エコネット平泉）に入会して、温暖化対策と一緒に取り組みませんか。協議会の目的に賛同する個人・事業者・団体で地球温暖化対策に関心のある方、これから取り組みを实践してみたい方ならどなたでも入会できます。

■ 年会費 ■ 個人会員 500円 事業者・団体会員 1,000円

入会を希望する方は、お気軽に協議会事務局にお問い合わせください。

事務局 平泉町町民福祉課内

TEL：0191-46-5562 / FAX：0191-46-3080

eco エコ ひらいずみ

ストップ！地球温暖化

発行
ひらいずみ地球温暖化対策協議会
(略称：エコネット平泉)
平成29年3月1日
(事務局)平泉町役場町民福祉課内
電話 0191-46-5562 FAX 0191-46-3080
メール chomin@town.hiraizumi.iwate.jp

ひらいずみ地球温暖化対策協議会とは

町民と事業者、行政などが、互いに連携、協力しながら、それぞれの立場において地球温暖化防止に取り組むための組織です。

活動内容

- 地球温暖化対策の学習・教育活動の推進（意識啓発と実践活動のきっかけづくり等）
- 地球温暖化対策に関する普及啓発活動（省エネ・節電対策等普及啓発活動）
- 会員相互の情報交換・研修

【平成28年度先進事例視察研修報告】

(1) 生まれ変わった平泉駅

皆さんは平泉駅がリニューアルしたことをご存知でしょうか。平泉駅はJR東日本の環境活動の一環として、2012年に全国で2駅目のエコステ(エコメニューを取り入れたステーション)として生まれ変わりました。エコステとはJR東日本が推進するゼロ・エミッションを目指す駅であり、現在では全国5か所に存在しています。

平泉駅では敷地の東側に78kwの発電量を誇るソーラーパネルと大容量の蓄電池を有し(写真①)、晴天の日には夜間も含めて一日中駅舎で使用する電力を賄うことができます。またその他にも屋根の断熱塗装や照明のLED化など様々な工夫がなされています。現在の発電状況や使用電力量等は改札口付近にある液晶モニターによって、リアルタイムで確認することができます。(写真②)

新しく生まれ変わった平泉駅は世界遺産の町の玄関口として、今後更なる活躍が期待されています。

(裏面に続く)



<エコステについて>

JR東日本が推進しているエコステ事業には「省エネ」・「創エネ」・「エコ実感」・「環境調和」の4つの柱があります。これらを色々な形で取り入れてエコステとして認定された駅は、平泉駅以外に東京都の四ツ谷駅(中央線)、千葉県の実業団地駅(京葉線)、福島県の湯本駅(常磐線)と福島駅(東北本線)の4か所です。風力発電や太陽光発電をはじめ、中には温泉熱を利用する駅まであり、それぞれが非常に個性的な駅です。この他に今年3月からは埼玉県の新浦和駅や新潟県の新津駅などもエコステになる予定です。環境に優しい駅がどんどん増えていくといいですね。

(続き)

② 水土里ネット照井（照井土地改良区） 小水力発電所

水土里ネット照井では二つの小水力発電所を設置しています。(右写真①、②)これらは今まで使われることのなかった「農業用水が流れる力」を利用する発電所です。荻野発電所はこれまでの常識を覆すほど低水量・低落差での発電が可能な画期的な水力発電所のため、2016年度の東北再生可能エネルギー利活用大賞を受賞しました。

③ なのはなソーラー2号発電所

なのはなソーラー発電所は（合）一関市民発電が設置した手づくりのソーラー発電所で1号機から3号機まで稼働しています。今回は弥栄の2号機を視察しました。(下写真③・④)

設置費用が高いと思われがちなソーラーパネルですが、自分たちの手で設置することにより大幅なコストカットが可能になったということです。更に、組み立てを自前で行ったため、万が一の際も自分たちで対応できる体制になっています。



照井発電所



荻野発電所

【まとめ】

今回の視察研修は地元を向け一関・平泉で行いましたが、日本国内でもまだ珍しい再生可能エネルギーの導入方法を見ることができました。普段「発電所」と聞くとどうしても大規模に発電するイメージがありますが、今回の視察先はいずれも小規模なものです。既存の大規模な発電所のように近寄りがたいものではなく、地元で馴染み、住民と上手に共存しているのが大変印象的でした。

現在、国内の電力生産の大部分は火力発電が担っています。火力発電は昼夜に渡って安定して出力の調節もしやすいことから、日本の電力供給には欠かすことができない現状にあります。しかし、化石燃料は二酸化炭素排出が伴い地球温暖化の原因になってしまうため、少しずつでも太陽光、水力、風力、地熱、バイオマス、木材などの再生可能エネルギーを導入していくことが重要なのではないかと感じました。

<岩手県の地球温暖化の現状>

ここからは岩手県内全体の現状をお知らせします。

最近では県内でも桜の開花が早まっていたり、昔より雪が少ないというようなことを耳にすると思います。これまで世界的に平均気温が100年あたり0.72℃のペースで上昇してきました※。ところが岩手県（盛岡市）においては、100年あたり約1.7℃のペースで気温が上がっているのです※。上昇幅は世界平均に比べて二倍以上となり、顕著な温暖化傾向が見て取れます。

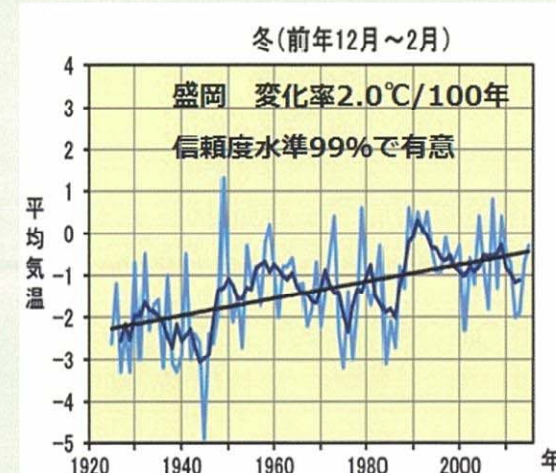
県内の温暖化傾向を冬季(12月～2月)に着目してみると、平均気温が100年あたり約2℃のペースで上昇しています(資料①)。また一方で、最深積雪5cm以上の日は100年あたり20日以上ペースで減っています(資料②)。これらを簡単にまとめると、以下ようになります。

- ①100年前の冬に比べて現在の冬は一日の平均気温が2℃程度高い傾向にある
- ②100年前に比べて5cm以上積雪がある日が1シーズンあたり20日程度減少傾向にある

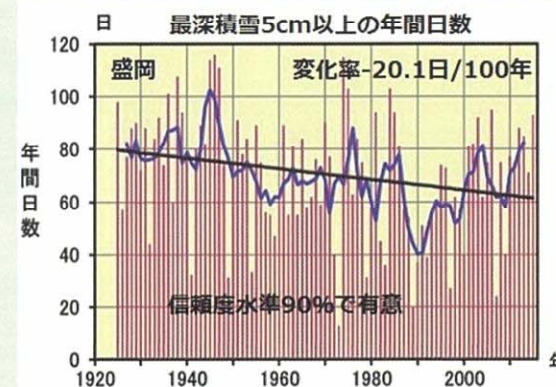
なお、冬季の降水量に大きな変化はないので、積もった雪がすぐにとけてしまったり、雨として降っている傾向がうかがえます。

このように実際に体感できるほど進んでしまった地球温暖化を防止するために私たちにできることは何か、子供や孫の世代に本来の岩手の姿を引き継ぐにはどうすべきなのか、私たち大人が真剣に考えなければならない時期に差し掛かっています。

①



②



※気象庁地球温暖化情報ポータルサイト
(http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/index_temp.html) より
出典：気象庁「世界の年平均気温の偏差の経年変化」
「岩手県の気候の変化」

トピック

水産資源の豊富な岩手県ですが、西暦2000年代に入り三陸沖でとれる魚種にも変化がありました。それまで温暖な海での水揚げが多かったサワラがたくさん水揚げされるようになったのです。サワラはこれまで岡山県などの瀬戸内海沿岸や九州で多く水揚げされている魚です。それだけではなく、昨年12月にはなんとあの伊勢海老も山田町で捕獲されました。サワラに伊勢海老、高級でおいしい魚介類が増えて嬉しい!と思いきや、反対にここ最近では鮭の漁獲量が減少するなど、良いことだけが起きているわけではありません。

このような変化の原因の一つとして地球温暖化や、それに伴う海流の変化が考えられています。実は今、温暖化と同時に世界中の海流にも微妙な変化が出ており、その影響ではないかと考えられているのです。